札幌市教委 働き方改革取組表彰校
3部門で小中6校選出
表彰式は30日に挙行

札幌市教委は、働き方改革を進める学校の表彰制度「みんなの工夫で学校を変える 働き方改革取組表彰事業」の本年度の表彰校を決定した。地域との連携や、組織一体となった業務見直しなどを進めた市立小・中学校計6校を選出した。30日に市内のSTV北2条ビルで表彰式を執り行う。

表彰は①チーム学校②ICT・DX③業務棚卸④地域連携―の4部門で募集。本年度は7月13日から8月21日の期間中、市内19校から28件の応募があった。ICT・DX部門の該当校はなかった。

選出された6校のうち、資生館小学校を除く5校は本年度の受賞校はつぎの通り。

▼チーム学校部門―桑園小、新札幌わかば小、資生館小
▼業務棚卸部門―藻岩北小
▼地域連携部門―幌北小、星置中

いずれも初の受賞。地域連携部門では、地域学校協働活動推進員と連携し、教職員が子どもと向き合う時間の確保に努めるなどの好事例が挙がった。

表彰校には、各校の取組内容に応じて20万～40万円の学校予算が配当される。

札幌東白石中 性教育講演会
当事者前提の環境を
相談対応の注意点伝える

札幌市立東白石中学校（石井貴司校長）は10月下旬、保護者やパートナー校区の教職員を対象とした性教育の講演会を開いた。宝塚大学看護学部の日高庸晴教授―写真―が講師を務め、国内外の調査データをもとに、教職員の何げない言葉が子どもの相談行動に与える影響や「アウティング（本人の同意のない第三者への暴露）」の危険性を指摘。当事者の存在を前提とした学校全体での環境づくりを求めた。

日高教授は「LGBTQ＋の児童生徒の存在を認識した学校での取組」と題して講演。結婚や恋愛の相手を異性と決めつける会話など、教職員や保護者の無意識の言動が、性的指向や性自認に悩む子どもを相談から遠ざける可能性があるとし「誰もが恋愛をするとは限らない」と多様な在り方を認識するよう求めた。



性的マイノリティー対象の調査では、59・6％がいじめ被害を経験している一方、「学級に当事者が少なくとも1人いる」と認識している教員は約3分の1にとどまっているとし、教員養成や現職研修での学習機会を設け正しい知識を身に付ける重要性を強調した。

児童生徒から打ち明けられた際の対応についても言及。アウティングの危険性にも触れ、情報共有が必要な場合も、その理由や共有相手について本人に丁寧に説明し、意向を確認することが不可欠だとした。

教職員研修の充実や関連図書の配架、制服や頭髪に関する校則の柔軟な対応などを提案。多様性を「理解してあげる」という一方的な姿勢ではなく「違って当たり前という価値観を育むため、日常的な言葉遣いや教育活動を見直してほしい」と呼びかけた。

石井校長は「誰もが安心して学び、過ごす社会に向けて考える機会になれば」と総括。佐見洋治教頭は「〝当事者の生徒がいるかもしれない〟という意識を持てていなかったと反省した。誰に相談して良いか分からない子どもたちにとって、そばにいる教員や保護者が信頼できる大人になれるよう学ぶことが大切。安心して過ごせる場所を共につくっていきたい」と先を見据えた。

札幌市立中で広がるキャリア教育
対話通して自他を知る
学級混合で受容と協働育む

札幌市立中学校を中心に、対話を通じて自己理解を深める自己省察型のキャリアプログラムが広がりつつある。過去と現在を見つめ直すことで、生徒が「自分の歩みたい人生」を早期に描き、主体的に計画するきっかけをつくるねらいだ。陵北中学校（鈴木伸和校長）では、1年生のキャリア学活で6学級を混合したプログラムを展開。接点の少ない生徒同士が自己を開示し合うことで、多様な他者の理解と受容力を育んでいる。

プログラムは、フリーランスで活動するNEONEの馬場航平さんが提供。陵北中を含め市内の小中10校で導入されており、生徒の自己決定を促す内容や、学校の実態に応じた教員との協働設計、年齢の近い大学生との交流などが特徴となっている。

陵北中では本年度、学年全体の協働力を高めるため「今の自分を知る」をテーマに場を設定した。約190人の生徒がクラスの枠を越えてグループを組み、まずは好きな言葉や趣味、強みなど15項目をワークシートに記入。「スキーを続けている」「検定のメダルが宝物」「両親を尊敬している」などと自己開示しながら対話を進めた。

続いて、前期の学校生活（友人関係、授業、生活習慣など）の満足度を10段階で自己評価するレーダーチャートを作成。「係決めは協力できた」「勉強が難しくテストで点が取れなかった」と振り返りチャートを1ポイント上げるための具体的な行動や「誰にでも平等に優しくしたい」といった「2年生でのありたい姿」を語り合った。



普段関わる機会の少ない他学級の生徒に自己開示

当日は保護者も参観に訪れた。参加した渡邉藍さんは「中学生になって学校にいる時間が長くなり、家族とのコミュニケーションが減ったことに気付いた。交流では、まだ話したことのない子の新たな面を知ることができた」と振り返った。

同校は次年度、学生や社会人講話などを経て職場体験へと学びをつなげる。学年主任の岩本香教諭は「コミュニケーションを通して自分と相手を知り、異なる意見を受け止める受容力を育みたい。学年全体で関わり合うことで、多様な人と協働する力を身に付けてほしい」と展望する。

プログラムを提供した馬場さんは「自分が何をしたいかに立ち返ることで〝何になりたいか〟ではなく〝どうありたいか〟が見えてくる。人生設計をかなえるピースの一つに職業があることを感じてもらえれば」と願った。

札幌市 4定補正予算案
光熱費に8億2千万円
ボーナス0・05ヵ月分引上げ

札幌市は20日、第4回定例市議会に提出する8年度補正予算案を発表した。市立園・学校など市民利用施設の光熱費に8億2000万円を追加し、教職員を含む職員の給与改定に必要な経費として4億500万円を盛り込んだ。一般会計の補正額は137億3335万円で、補正後の予算総額は1兆3968億4249万円となる。

光熱費の追加は、物価高騰に伴う不足分を補うもの。市立小・中学校、高校、一部の幼稚園と里塚斎場を対象に、既定予算では賄えない電気代や灯油代などを追加する。

給与関係では、市人事委員会の勧告を踏まえ、公民較差3・16％の解消に向けて月例給を引き上げる。期末・勤勉手当の年間支給月数も0・05月分引き上げるほか、会計年度任用職員の給与改定に必要な経費を追加する。

このほか、琴似小学校内のミニ児童会館を琴似けやき児童会館に転換することに伴い、9年度からの指定管理に向け、限度額3944万円の債務負担行為を設定した。

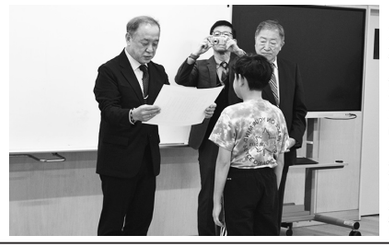
税の書道・標語表彰状授与式
快適な生活へ願い込め
札幌中央小、資生館小で

札幌市立中央小学校（冨波修校長）と資生館小学校（山田健校長）で、税の書道作品および標語の表彰状授与式が執り行われた。札幌中税務署の利根川誠署長をはじめ、札幌中地区納税貯蓄組合連合会、札幌中青色申告会連合会、札幌中間税会の代表者らが両校を訪問し、優秀な成績を収めた児童に賞状を手渡した。

税の書道作品および標語は、国税庁が定める「税を考える週間」に合わせて租税教育の一環として実施しているもの。税に関するテーマであれば児童が自由に内容を決めることができる。

中央小15人受賞

中央小では、書道作品で5年生5人とひまわり学級1人、標語で6年生9人が受賞。17日、利根川署長らから表彰状と感謝状が贈られた。



中央小で賞状を受け取る児童

利根川署長は「税の役割や使い道に触れた素晴らしい作品ばかりだった」と称賛し「これからも税を持って正しい理解を深めていってほしい」と呼びかけた。

田口牧教頭は「税金を正しく、無駄なく使えるように、新聞やニュース、興味・関心を持ちながら勉強を頑張ってほしい」と呼びかけた。

書道で税金にまつわる様々な漢字を書いたという田上椋一さん（5年）は「みんなが快適に生活できるように税金を無駄なく活用できる社会になってほしい」と願った。

標語作品で「納税で　みんなのくらしを　考えよう」を作成した経塚柚奈さん（6年）は「納税に対して抵抗感を抱いている人々に、税金の役割や大切さを伝えていきたい」と意気込みを語った。

資生館小8人受賞

資生館小では19日、書道作品を作成した5年生6人と6年生2人に表彰状が贈られた。

賞状を手渡した利根川署長は「力作が多く素晴らしい作品ばかりだった」と称賛し「これからも税を持って正しい理解を深めていってほしい」と呼びかけた。



資生館小で賞状を受け取る児童

田口牧教頭は「税金を正しく、無駄なく使えるように、新聞やニュース、興味・関心を持ちながら勉強を頑張ってほしい」と呼びかけた。

書道で「税」を書いた篠﨑友美加さん（5年）と中谷優ノ奈さん（5年）は「飛び跳ねたいくらいうれしかった」「うれしくて友達に自慢した！」と笑顔を見せ「家族や友達にも税の大切さを伝えようと思う」「大人になったら貯金や仕事を通じて税と向き合っていきたい」とそれぞれの思いを語った。

道通ビル 入居者募集
貸事務所、貸店舗
第一、第二、第五道通ビル。札幌駅より徒歩三分。道庁に至近。冷暖房、立体駐車場、地下に飲食店街があります。地下貸飲食店舗、一階貸店舗、三階以上貸事務所。委細面談。
お問い合わせは
北海道通信ビル株式会社
札幌市中央区北五条西六丁目
電話（〇一一）222―三三一六番
http://dotsu-bldg.net